

2022年度 第9回執行理事会議事録

日程：2023年4月8日（土）13:00-18:30

【WEB会議】

出席：岡田 誠、杉田律子、星 博幸、中澤 努、緒方信一、内尾（保坂）優子、内野隆之、尾上哲治、加藤猛士、狩野彰宏、亀高正男、小宮 剛、坂口有人、高嶋礼詩、辻森樹、松田達生、矢部 淳、山口飛鳥

監事：山本正司、岩部良子

事務局 澤木

*定足数（過半数：10）に対し、執行理事18

名の出席

*前回22-8（3/4）議事録案確認

事務的な修正を行い、承認された。

報告事項

1. 全体的報告

2. 運営財政部会（亀高・加藤）

1) 総務委員会

<共催・後援依頼、他団体の募集、連絡等>

・三浦半島活断層調査会主催 視察会「観音崎の地層と関東大震災の傷跡をたどる」（「地質の日」の行事：6/4実施）への後援依頼があり、承諾した。

・資源・素材学会役員就任挨拶（書面）（会長：笹木圭子〔九州大学大学院〕）。

・計測自動制御学会役員就任挨拶（書面）（会長：高橋桂子〔早稲田大学〕）。

・防災科学技術研究所理事長就任挨拶（書面）（理事長：寶 馨）

・2024-2025年開催藤原セミナー募集案内（7/31締切）【→ニュース4月号, geo-flash4/4掲載】

・伊藤科学振興会研究助成公募（宇宙地球科学分野）の案内（7/5締切）【→ニュース4月号, geo-flash4/4掲載】

・令和5年度日本学術振興会志賞候補者推薦依頼（学会推薦5/12締切）【→ニュース4月号, geo-flash4/18掲載】

<会員>

1. 今月の入会者：10名

正会員一般（2名）：久森洗希、高橋浩一

正会員学生（8名…単年度：3名、2年バック：3名、3年バック：2名）：岩城昂平、片桐星来、原野あゆ、丹羽美春、関山優希、小林唯乃、工藤駿平、DONG Wenzhao

2. 今月の退会者 なし

3. 今月の逝去者 なし

4. 2023年3月末会員数

賛助：27、名誉：37、正会員：3069〔正会員：2950、院割：112、学部割：7〕合計3133（昨年比-74）

5. その他【回覧資料あり】

①2022年度末退会者(107名、正会員：102名、正（院割）：5名)

②2022年度末除籍者(正会員62名)

③新・永年会員顕彰制度の顕彰者77名(名簿あり、4月理事会にて報告予定)。

対象者：顕彰年度の前年度までにそれぞれ40年、50年、60年、70年間の会費を納入した会員。

<会計>

・2022年度決算案、2023年度予算案（→審議事項へ）

<その他>

・オンライン会員情報管理サイトについて（亀高）：テストランを実施し、システムを修正した。修正結果を反映させたマニュアルを作成し、4~5月中に会員への公開を行う予定。

・選挙投票システムを準備中。7月中にシステムを完成させ、8月にテスト予定。

3. 広報部会（内尾・松田）

1) 広報委員会（内尾）

特になし

4. 学術研究部会（辻森・尾上・高嶋・山口）

1) 行事委員会（高嶋・山口）

・2023京都大会

▷トピックセッション16件を採択（昨年比+3）。

▷（株）アカデミックプレインズに大会運営を委託することとした

▷2023年度科研費（地質情報展・市民講演会）は不採択となった

▷LOCシンポジウムの現状

▷巡検案内書編集状況（全9コース：巡検6件【A~F】、アウトリーチ巡検1件【O】、ワークショップ2件【W1, W2】）査読後小修正で著者へ返却：3件（C, W1, W2）、査読後、未返却（結果は小修正）：1件（G）、査読中：2件（D, F）、未提出：2件（B, E）、差し戻し：1件（A）

▷市民講演会：講演1：「歴史記録と地質からみた京都の地震」（産総研：小松原 琢氏）/講演2：「微小地震から見た京都周辺の地震活動と地震を起こす力」（京都大学：飯尾能久氏）を予定

▷LOCシンポジウム「白亜紀フレアアップ（仮題）」世話人：河上哲生（京都大学）・谷健一郎（国立科学博物館）を検討中

▷学生の宿泊プランを若手有志会、LOCを中心に検討中。理事会にて状況報告が予定されている。

▷地質系業界説明会は、今年も対面（9/18）とオンライン（9/22）での開催を予定。オンライン開催予定日が他の行事と重複

しないことを本執行理事会にて確認した。

・2024山形大会の状況

▷巡検案が出そろい、案内者への依頼終了。コースの詳細を案内者に依頼中（以下コースの予定。1)蔵王山（伴 雅雄）/2)山寺の地質と文化地質学（田宮良一・大友幸子・荒木志伸）/3)テフラ・地すべり（八木浩司）/4)山形県中西部の地質と化石（長澤一雄・本山 功）/5)鳥海・飛鳥 未定/6)松島（高嶋礼詩）/7)蔵王山 鉱床と西蔵王（井村匠）/8)基盤岩類 未定/）

▷案内書編集委員会：山崎 誠（秋田大：編集委員長）、大場 司（秋田大）星出隆志（秋田大）、根本直樹（弘前大）、西川 治（秋田大）

▷旅行代理店は山交観光株式会社に決定。

▷アウトリーチ巡検「山形城遺跡と石材」（齋藤・大友）は、学会巡検とは別枠で実施を予定しており、案内書の地質雑への掲載無し。

▷山形大学との共催、後援があれば会場費の減額措置がある見込み（4/10確認）。

・7回ショートコース（山口）：2023年4月2日（日）応力逆解析法についての基礎・実習を開催した。申込者数69名。参加者のうち希望者は当日の講義内容（動画）を期間限定で視聴可能（4/10-18）。定員で締切ったが、さらに参加希望が寄せられているため、10月に同内容を再度行うことを検討中。

・8回ショートコース（山口）：2023年6月予定で「年代測定」をテーマとして講師打診中。

2) 専門部会連絡委員会（尾上）

・各部会より年次報告を収集中。4/15理事会報告予定。

3) 国際交流委員会（辻森）

・IGC韓国LOCからのレター（23/3/13付）への対応（→審議事項へ）

4) 地質標準化委員会（内野）

特になし

5. 編集出版部会（狩野・小宮）

1) 地質学雑誌編集委員会（小宮）

(1)編集状況報告（2023年4月5日現在）

・2023年投稿論文：23〔内訳〕論説6（和文6）、ノート2（和文2）、レター3（和文3）、報告3（和文3）、フォト1（和文1）、討論1（和文1）、巡検案内書7

査読中：33、受理済み：1

・129巻：公開済み21、入稿・校正中1

(2)その他

・特集号「コンクリーション」が完成（構成原稿が全て公開）。会員優先で冊子体購入の予約受付を開始した（会員価格2,600円、5/31締切）。

・129巻オンデマンド印刷の受付を終了した（希望者9名）。公開論文の分量に合わせて適宜冊子体を作成・送付する。

・京都大会巡検案内書について、著者から原

稿取り下げの申し出があった。

2) アイランドアーク編集委員会 (狩野)

(1)編集状況報告

3) 企画出版委員会 (松田)

特になし

6. 社会貢献部会 (坂口・矢部・内野)

1) 地学教育委員会 (坂口)

・「令和5年度大学入試共通テストの地学関連科目に関する意見書」を提出した (3/10)。

2) 地質技術者教育委員会 (坂口)

・地質系若手人材動向調査 (2022年度) 実施予定

・大学と学会との関係強化策の検討状況

①目的: 地質学の発展と地質専門家の育成に大学の役割は大きく、学会として大学の教育研究活動を支援する。②内容: 各大学の学科や研究科に所属する会員と教育研究現場状況の情報を共有し、学会としての支援策を検討する。③各大学の参加メリット: 地質学分野の大学の研究教育状況の情報共有/キャリア教育支援。地質系業界説明会、地質系若手のためのキャリアビジョンなどの後援に入ること、学科のキャリア教育実績になる/大学等への要望書。大型研究費の応募、学科再編、巡検などに使用する大学バスの継続など教育研究に資するもの。④スケジュール: 大学と学会とのWeb懇談会を5月初旬をめどに開催予定。今後大学関係者と日程調整予定。学会からは三役及び委員長の出席を予定。

3) 生涯教育委員会 (矢部)

特になし

4) 地震火山地質子どもサマースクール (星)

特になし

5) 地質の日 (矢部)

・地質の日のイベント情報を学会HPで公開した (地質の日事業推進委員会にもリンク)。

・街中ジオ散歩in横浜 (5/14) の参加者募集を開始した。4/16まで受付けし、申し込み多数の場合には抽選する。広報は学会HP・(SNS) および神奈川県立生命の星・地球博のHPなど。

・オンライン普及講演会「日本列島の地質探訪ー古生代から新生代まで」(5/13, 9:30-12:05) のチラシを坂口理事に作成いただき、広報を開始した。ジオパーク支援委員会、日本ジオパークネットワークなどへ情報提供済み。今後は関連学協会への広報依頼を行う予定。

・フォトコンテスト入選作品の地質解説を作成中。

7. その他執行理事会の下に設置される委員会及び組織

1) 利益相反マネジメント委員会 (中澤)

特になし

2) 若手育成事業検討WG (内野)

・2023年度研究奨励金審査結果を理事会へ上程する。また、交付決定通知および受給申請書等関連書類の書式が提示された。不採択となった会員へは、個別の理由を記載する。あるいは個別審査項目の点数を通知す

ることが望ましい。また来年度は審査基準を募集時に事前に公表する。

3) 表彰制度検討WG (中澤)

・ジュニアセッションの優秀賞と奨励賞の位置づけが、明文化されていないため、今後本WGで検討する。現時点では細則等のレベルよりも下のレベルで良いと考えている。

8. 理事会の下に設置される委員会

1) ジオパーク支援委員会 (矢部)

特になし

2) 地学オリンピック支援委員会 (坂口)

特になし

3) 支部長連絡会議 (杉田)

特になし

4) 地質災害委員会 (松田)

・関東大震災100年に関連行事進捗状況: 1. 神奈川県秦野市震生湖方面の巡検 (秋季の土曜または日曜日に開催を予定。植生が繁茂する時期は避ける) 2. 講演会 (歴史地震に関する話題) 実施形態等の詳細は検討中。

5) 名誉会員推薦委員会 (星)

・3/7推薦委員会を開催し、2名の名誉会員候補者を選定したので理事会に推薦する。

・「推薦プール制度」の廃止について検討を依頼する (→審議事項へ)

6) 各賞選考委員会 (中澤)

特になし

7) ジェンダー・ダイバーシティ委員会 (辻森)

・「男女共同参画学協会連絡会 (日本地質学会オブザーバー参加, JpGU正式加盟) から男女共同参画学協会連絡会要望書「科学技術系分野における任期付き研究者の雇用問題解決に向けての要望: 若手・氷河期世代研究者の待遇改善が研究力強化につながる」とその説明資料について案内があった。ニュース、メルマガで会員にも周知する。

8) 連携事業委員会 (中澤)

特になし

9) 法務委員会 (中澤)

特になし

9. 研究委員会

1) 南極地質研究委員会 (委員長 大和田正明)

特になし

2) 法地質学研究委員会 (委員長 川村紀子; 杉田)

特になし

10. その他

・若手有志会関連 (代理 星)

▷地質系業界オンライン交流会実施報告があった。2/17開催。5名の団体・企業からご参加いただいた。学生参加者35名。巡検企画の進捗報告。

▷地質若手巡検・研究集会準備状況: 7/8-9実施。北海道洞爺湖有珠山ジオパーク。定員40名 (最小最高人数28名)、参加費16,000円程度を予定。

審議事項

1. 選挙規則の改正について

理事 (役員) 選挙の所属別最低充足数について、学生の理事は2名で優先固定。他の理事数については、都度正会員の所属別構成比で算出することとし、「別に定める」とした。算出基準とする年月日については、事務局と相談し、規則変更案を理事会へ上程する。

2. 選挙細則の改正について

電子投票に対応した記述に変更する (該当箇所: 第2条, 第5条, 第6条, 第11条, 第12条, 第14条)。立候補方法について「郵送」は削除し電子システムのみする方法とする。また立候補時には、「立候補名簿への属性 (若手・性別) の表示の意思」を明示してもらうこととする。規則変更案を理事会へ上程する。

3. IGC韓国LOCからのレター (23/3/13付) への対応

23/3/13付IGC韓国LOCから会長宛のレターを受領した。レターでは竹島、日本海呼称の懸案課題や日本からのサポートレター撤回に対する具体的な対応や方針は触れられていない。今後の学会としての対応は4/15理事会で議論する。またIUGS分科会の対応を注視する。

4. 令和6年春の科学技術に関する褒章受賞候補者の推薦について

文部科学省より、褒章受賞候補者の推薦依頼があった。推薦基準に照らし適宜対象となる会員を推薦する。科学研究貢献分野に照らして該当する褒章の種類については文科省担当者に見意見を求める。

5. 名誉会員推薦時の「推薦プール制度」の廃止について

推薦人数の制限があるために有力な候補が選考から外れた場合、推薦者が希望すれば推薦書を次年度も有効とすることが推薦委員会の申し合わせ事項とされている。これを廃止したい旨の説明があった。実際上は「再推薦を妨げない」旨が明記されていれば差支えないと考えられる。今後理事会で審議する。

6. 学生優秀発表賞の具体的な選考過程について

新設される学生優秀発表賞の選考方法について議論した。行事委員会で引き続き検討し、執行理事会で承認する。理事会には報告レベルとする。7月までに会員へ開示する。

7. 学術大会におけるネームホルダー変更の提案

若手有志会より、参加者の属性 (特に学生) や求職中であることをわかりやすく明示し、関係会員同士の交流を促進することを目的とした名札に変更したいという提案があった。主旨には概ね賛同。現会員証 (バーコード付) での受付の利便性も尊重しつつ、提案内容をできるだけ反映させるよう検討することとした。

8. 2022年度事業実施概要

理事会上程案について承認された。

9. 2023年度事業計画

理事会上程案について承認された。

10. 2022年度決算概算

現時点での未払支出があり概算となっている。会費収入が予算よりも増収である理由は、過年度会費（滞納分等の今年度収受）がプラスされて計上されているためであるとの説明があった。その他各項目について個別に補足説明があった。決算案を了承し、理事会に諮ることとした。

11. 2023年度予算案

2023年度事業計画骨子に沿って予算案を計画した。個別では、会費収入は170名減を想定して計上し、年会開催事業費は京都大学の会場費が有料となるため支出が増加している。また、2023年度から若手育成事業支出（全額引当金から拠出）が始まる。予算案を了承し、理事会に諮ることとした。

なお、引当金300万の取り崩しを含めないと単年度は300万円の赤字となるが、これは近い将来として解消すべきである。収入増・支出減について、具体的な検討を引き続き進める必要がある。

12. 理事会審議事項の確認

4/15理事会での審議事項、担当、資料などを確認した。

- 1) 名誉会員候補者の選出（星）
- 2) 各賞受賞者の決定（山路）
- 3) 研究奨励金支給対象者の決定（内野）
- 4) 選挙規則類の改正（杉田）
- 5) 若手活動運営委員会設立（下岡）
- 6) 「学生会員」への学術大会等巡検参加費補助（内野）
- 7) 2022年度事業実施概要（中澤）
- 8) 2023年度事業計画（岡田）
- 9) 2022年度決算概算（亀高）
- 10) 2023年度予算案（亀高）
- 11) 支部活動報告および承認（杉田）
- 12) 総会議案の決定（中澤）

13. 理事会報告事項の確認

4/15理事会での報告事項と担当、資料などを確認した。

14. その他

・京都大会巡検について
一部コースについて案内書原稿の取り下げと巡検実施取り止めの可能性がある。今後、行事委員会とLOCも交えて案内者と協議する。巡検案内書原稿については、地質学雑誌上でのカテゴリーを明確にし、「巡検案内書」として独立した形での公開やより上梓しやすい形とすべきではないかとの意見があった。編集委員会、行事委員会、LOC等とも意見交換し議論を進める。

監事コメント

（山本監事）地質学雑誌の電子化が財政に参与しているが会員減少もあり安心できないため財政については今後も留意されたい。若手育成事業費を計上しているのは学会の将来のために有益である。4/15は総会前の理事会であるので理事の出席者を管理して欲しい。理事としての職責を果たすために、今後も理事

の出席を促して欲しい。

（岩部監事）総会前の理事会では、選挙規則について理に対して分かり易い資料と説明をお願いしたい。韓国との関係については、会員の今後の行動に影響を与えるため、正確な情報をもとに理事会で十分に議論して頂きたい。電子化については冊子体印刷の取扱い等も含めて、今後も議論を進めて頂きたい。

以上

2023年5月19日

一般社団法人日本地質学会
会長（代表理事）岡田 誠
署名人 執行理事 中澤 努

2022年度 第10回執行理事会議事録

日程：2023年5月20日（土）13:00-16:30

【WEB会議】

出席：岡田 誠、杉田律子、星 博幸、中澤 努、緒方信一、内尾（保坂）優子、内野隆之、加藤猛士、

狩野彰宏、亀高正男、小宮 剛、高嶋礼詩、

辻森 樹、矢部 淳、山口飛鳥

監事：山本正司、岩部良子

事務局 堀内

欠席：尾上哲治、松田達生、坂口有人

*定足数（過半数：10）に対し、執行理事15名の出席

*前回22-9（4/8）議事録案は改めて確認、承認された。

報告事項

1. 全体的報告

・全地連創立60周年記念誌への寄稿依頼があった。岡田会長執筆予定。執筆期日：6/16（金）

・防災学術連携携、関東大震災100年企画冊子への寄稿依頼があった。関東大震災で何が起きたか、その後の100年間における展開、変化、今後の課題について、A4版2ページ分、6/5締切。関東大震災以降沖積層の研究が進んだ経緯もあり、専門分野である中澤理事が執筆する。

・北海道支部神居古潭巡検（8/18-19実施予定。参加費：正会員（一般・シニア）：30,000円、正会員（学生会員）18,000円）に対して、メール審議の結果、学生会員への参加費補助を適用することとした。

・文部科学省・学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想（ロードマップ2023）策定に係る公募が開始された（5/12公募説明会、公募期間5/8-6/30締切）。従来は、学術会議からの重点研究から選択して文科省が公募していたが、今回はマスタープランでは示されないことから文科省独自で策定し公募することとなったとのことである。学会の役割は、大学・研究機

関からの応募テーマに関して、学会が支持支援している立ち位置となるため、地質学会からは応募しないこととした。

・IGC2024対応に関する現状について、学会からの会長メッセージを6月末の2nd_circular発表後にHPにて公開する予定。

・令和6年春の科学技術に関する褒章受賞候補者の推薦について、推薦資料を作成中。5/26締切。

2. 運営財政部会（亀高・加藤）

1) 総務委員会

<共催・後援依頼、他団体の募集、連絡等>

・日本学術会議公開シンポジウム「有人潜水調査船の未来を語る」（6/17）への後援依頼があり、承諾した。

・青少年のための科学の祭典2022（22/6/11-23/2/5開催、地質学会後援）の実施報告があった。コロナ禍の影響により6会場が中止となり、計43会場で開催。来場者総数77,230名。

・青少年のための科学の祭典2023（6/10-24/1/21：全国44会場で開催）への後援依頼があり、承諾した。

・2023年日本地球化学会年会（9/21-23開催；於東京海洋大学）への共催依頼があり、承諾した

・地学オリンピック日本委員会主催、東アジアの高校生のための地学フェスティバル（8/31-9/3；於福岡県宗像市グローバルアリーナほか）への後援依頼があり、承諾した。

・山陰海岸ジオパークより、世界の地質遺産100選認定記念事業（5/14開催）への後援依頼があり、承諾した。

・蒲郡市生命の海科学館「第13回惑星地球フォトコンテスト入賞作品展」（1/28-4/9開催、地質学会共催）の実施報告があった。来場者数7,374名。

・令和5年度福島県教育委員会学芸員（地質学）採用選考の案内があった【→geoflash、ニュース5月号掲載】

<会員>

1. 今月の入会者：18名
正会員一般（5名）：石川泰己、隈 隆成、小北康弘、大谷彩夏、齊藤朱音

正会員学生（13名…2年バック：3名、3年バック：10名）：椿 陽仁、原山 翔、延原香穂、吉丸 慧、青柳治毅、荻原 誉、大畑颯人、河野駿輝、毛利元紀、星 輝、山崎陽生、山本秀忠、中島展之

2. 今月の退会者：1名

正会員一般：木村陽介

3. 今月の逝去者 なし

4. 2023年4月末会員数

賛助：27、名誉：37、正会員：3087 [一般：2118、シニア：856、学生会員：113] 合計3151（昨年比-72）

<会計>

・ワイリー社より2022年Island Arcロイヤリティの入金があった（¥2,263,403）。

<その他>